

● これからの活動 ●

※活動予定は変動の可能性がございます。最新の情報は人間科学研究所のホームページをご参照ください。

研究会

David Oppenheim先生

「自閉スペクトラム症をもつ子どもと父親・母親との相互作用：両親の洞察性が子どもの社会的能力に及ぼす影響」

講演タイトル：“Mother-Father-Child interactions in Autism: The contribution of parental insightfulness and the impact on children’s social competence.”
自閉スペクトラム症をもつ子どもと父親・母親との相互作用：両親の洞察性が子どもの社会的能力に及ぼす影響

講師：David Oppenheim, PhD

日時：2025年2月15日（土）13：30～16：30

会場：甲南大学ネットワークキャンパス東京
（JR東京駅日本橋口から徒歩1分）
東京都千代田区丸の内1丁目7-12
サピアタワー10F

甲南アトリエ

「しゃべ郎をつくろう!!」

日時：2025年3月8日（土）14：00～16：00

講師：オマルト・ヴェンザー（美術家）

場所：甲南大学岡本キャンパス18号館3階講演室

ワークショップ

語りの広場

日時：2025年2月23日（日・祝）14：00～16：00

場所：甲南大学18号館3階 講演室

講師：稲継美保（俳優）

企画：西尾千尋（甲南大学）

子どもの哲学

日時：2025年2月24日（月・振休）14：00～16：00

場所：甲南大学18号館2階 演習室1

講師：稲継美保（俳優）、川口智子（演出家）

企画：ファヨル入江容子（甲南大学）

第2回 赤ちゃん観察会

日時：2025年3月1日（土）・2日（日）
10：00／11：00／12：00／13：00

主催：西尾千尋（甲南大学文学部講師・人間科学研究所兼任研究員）、居間 theater [東彩織、稲継美保、宮武亜季、山崎朋]

ゲストアーティスト：西井夕紀子

会場：甲南大学岡本キャンパス18号館
3階講演室・2階演習室1

発行年月日：2025年3月1日

編集後記

今年度は1995年1月17日の阪神・淡路大震災から30年を数える年となりました。地震や火災による直接的な被害だけでなく、避難所・応急仮設住宅での災害関連死、被災者の孤立やトラウマなど、阪神・淡路大震災が浮き彫りにした諸課題は、今でも風化することはありません。被災を経験していない世代が増えていく中で、災害の教訓をいかにして次世代へとつないでいくか、記憶の継承が問われています。

阪神・淡路大震災を機に設立された本研究所においても、2025年度には関連するシンポジウムの実施に向けて準備を行っております。開催の際には、30年を振り返る機会として、ぜひ足をお運びいただけましたら幸いです。

NEWS LETTER
甲南大学人間科学研究所

KIHS
Konan Institute of Human Sciences

2025 Vol.

42

今年度のニュースレターをお届けします。

人間科学研究所では、2020年度より開始いたしました研究事業「Phase6：過去と未来をつなぐ～危機の乗り越えに向けて」を2024年度も継続、2025年度の完了を目指すこととなりました。この事業の中では、「『子ども・子育て』に関する研究・実践」「トラウマ、人生史、記憶を対象にした学際的研究」「人間科学の哲学的・思想的基盤を検討と芸術学における実践と研究」の3つを主題として活動を行ってまいりました。これまで外部資金の研究期間や所長の交代時期に合わせて「Phase」を区切っておりましたが、KONAN U. VISION 2025と同期させるとともに、新たな兼任研究員の先生方も加わったことで、人間科学研究所としての新たな体制を模索していくこととなりました。新体制の確立を目指すとともに、今後とも研究、教育、地域連携、世代間交流に貢献していく所存です。今号は、本年度の3件の活動（開催予定の5件を除く）について、企画者（あるいは講演者）の先生にご報告いただきました。ご味読ください。





活動報告

●2023年度の活動

ワークショップ 赤ちゃん観察会

日 時：2024年3月2日（土）10：00～15：00
参加者数：42名（保護者・ご家族28名、お子様14名）

本ワークショップでは、0～2歳までの赤ちゃんのご家族と講師と一緒に、赤ちゃんを観察する試みを行いました。会場には赤ちゃんが興味を持ちそうな日用品や素材を用意し、赤ちゃんの目線で写真を撮ったり、遊ぶ様子を観察ノートに書き留めてもらいました。ノートと手形ハンコのお土産をお持ち帰りいただきました。42名の方々にご参加いただき、子どもと向き合う時間になった、ゆったりできた、家とは違う場所での行動が見れて興味深かった、視界が広がった、といった感想が寄せられました。

赤ちゃんは毎日いろいろなことを発見しながら発達していきますが、日々の子育ての中で、赤ちゃんがやろうとしていること、見つけたことなどにじっくりと向き合う時間はなかなか取りにくいかもしれません。観察的な目線で子どもを見ることで、関わり方の広がりにつながることを期待しています。（報告：西尾千尋）



甲南アトリエ 「手ざわりワークショップ：わたしの好きな神戸」

日 時：2024年3月16日（土）10：00～12：00
参加者数：13名（甲南大学学生4名、一般9名）

昨年度に引き続き、全盲の美術家として国際的に活躍している光島貴之さんを講師にお迎えし、甲南アトリエを開催しました。様々な手ざわりのカードを使って指先の感覚を目覚めさせるワークショップを行ったあと、参加者は「わたしの好きな神戸／まち／もの」をテーマに、厚紙の上に布や紙、ボタンや針金やスポンジなど、様々な手ざわりの材料をボンドやグルーガンで張り付けて、触覚で味わう作品を作りました。

昨年度は、「神戸」という言葉から海と山を造形した作品が多かったのですが、今年は光島先生から視覚的なイメージにとらわれることなく、五感で感じられるイメージを形にしてくださいという声かけがあったため、より抽象的で自由な作品が生まれました。神戸になじみがなければ他の町でも、何か他に好きなものでも構いませんとも言っていたいただいたことも、作品のバラエティを広げることにつながりました。

制作した作品は、ひとつひとつ丁寧に光島先生が手ざわりで鑑賞しながら講評をしてくださいました。光島先生の予想を超える独創的な手法の作品が多く、驚きながら鑑賞しておられました。受付や会場設営の手伝いも兼ねて、文学部人間科学科の学生4人も参加してくれたので、幅広い世代の人が集まるあたたかい雰囲気ワークショップとなりました。（報告：服部 正）

第5回九鬼周造記念シンポジウム 「愛と人生の価値」

実 施 日：2023年3月18日（土）14：00～16：00
参加者数：15名

甲南大学・人間科学研究所では、これまで九鬼周造にかかわるシンポジウムを開催してきました。九鬼周造は『「いき」の構造』において、日本の花柳界の男女の関係を主題にして、着物の着こなしや振る舞いや仕草など、当時の西洋美学ではほとんど取り上げられない事柄を論じました。5回目となる今回は、現代の分析哲学の最前線で活躍する研究者を招いて「愛と人生」について哲学の観点から議論しました。源河亨氏（九州大学）は、愛の哲学の観点から不倫について考察して、愛を制御できるものとみなす立場から不倫の悪さを明らかにしました。森功次氏（大妻女子大学）は、日常美学を拡張しながら、子育てにおいて親が子供を「かわいい」と見なすことがどのようなことなのかを検討しました。会場からは、哲学や心理学の観点から愛や子育てに関わる質問やコメントがなされて、議論が盛り上がりしました。（報告：吉川 孝）

●2024年度の活動

子育てライブラリー2024

日 時：2024年4月25日（木）10時～11時30分
場 所：甲南大学18号館3階共同研究室Ⅰ
参 加 者：10名（保護者6名、子ども4名）

人間科学研究所では子育て支援の一環として、絵本や紙芝居、育児関連の本などを地域の皆様に公開するイベント「子育てライブラリー」を開催しています。今年度の第1回目は、「第15回お父さん・お母さんのための子育て応援講座」と同日に開催し、ボランティア団体「おはなしの会ひばり」の皆様に読み聞かせをしていただきました。参加者からは、「自分ではできないような読み聞かせだった」「いろんな楽器の音があり、楽しかった」といった感想をいただきました。（報告者：岩本沙耶佳・北川 恵）



第6回九鬼周造記念シンポジウム 「時間と実存」

実 施 日：2024年7月27日（土）13：00～15：00
場 所：甲南大学岡本キャンパス（18号館3階講演室）
参 加 者：24名（甲南大学学生1名、一般23名）
実 施 者：【提 題】古田徹也（東京大学）
【コメント】池田 喬（明治大学）
【司 会】吉川 孝（甲南大学）

甲南大学・人間科学研究所では、これまで九鬼周造にかかわるシンポジウムを開催してきました。6回目となる今回は、哲学の最前線で活躍する研究者を招いて「時間と実存」について議論しました。提題者の古田徹也氏は、ウィトゲンシュタインの研究者であり、行為、言語、運、人生などを主題とする著作も発表しています。コメンテーターの池田喬氏は、ハイデガーの研究者であり、現象学の立場から行為や倫理などに関連する著作も発表しています。古田氏は発表「九鬼周造における時間と実存——水平的時間と垂直的時間をめぐる」において、九鬼の「水平的時間」と「垂直的時間」の交差において立ち現れる人間の「実存」の次元を「日課」などの具体例との関連において明らかにしました。池田氏からは、そうした事柄が「仮想的な条件下における私の選択」の問題と結びついていることや九鬼のテキストには明示されていないハイデガーの影響についての指摘がなされました。質疑応答では、日本哲学や現象学の研究者から積極的な発言がなされ、九鬼周造をめぐる貴重な学術交流の場になりました。（報告：吉川 孝）



甲南アトリエ 第15回 親子孫子で楽しむアート

『能登半島に思いを寄せて～箔を使ってみよう』

日 時：2024年8月3日（土）10：00～12：30
場 所：甲南大学18号館3階講演室
講 師：椋田三佳（美術家）
企 画：内藤あかね（甲南大学人間科学研究所客員特別研究員）
参 加 者：20名

8月3日（土）の午前中、18号館講演室に8組20名の家族友人が集まり、講師の椋田三佳さんのご指導の下で金銀箔を使ったアートに挑戦しました。紙状の薄く柔らかい箔を見たり触ったりするのは初めてであろう子どもたち。竹挟みで箔を挟み、ねらった位置に広げて置くだけでも難しい作業でしたが、糊と型紙を使って小皿や小盆に小紋やオリジナルの模様を貼り、それぞれ素敵な作品をつくられました。元旦に大地震に襲われた能登半島は漆塗りで有名です。参加者一同、漆器を彩る箔はこんな風に使うのだと学び、小片でも作品に活かそうと工夫する姿が印象的でした。（報告：内藤あかね）

